

令和6年度「学校評価」
結果公表シート

学校法人 田中学園
八潮ちくみ幼稚園

当園ではこの度、令和6年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及を実施いたしました。

教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。これらの結果を活かし来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育理念
未来を背負う 健康で 明るく 元気な子ども達を育成し 地域社会に貢献する
教育内容
ちくみ幼稚園では、「楽しみながら身につける」をモットーに、生活上のしつけを基本に、運動・音楽・知育とバランス良く教育をおこなっています。また、年間を通して楽しめる行事をたくさん開催し、その中から先生は、一人ひとりの子どもの「すごい」や「個性」を発見し、たくさんほめて、さらに伸ばすよう努めています。
教育目標
遊びや保育を通して 「強い心」 「強い体」 「やさしい心」 「思いやりのある心」を育て

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身に付けることを重点項目とする。また、自園の長所と短所をしっかりと認識し、
--

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		具体的確認項目	取組み状況	
1	小さな作法の徹底	●小さい年齢だと、言葉は覚えていても実際にできてはいない子も多い、年次や個々の成長に合わせて意味が理解できるように、指導を続ける。 ●保護者の方とも「小さな作法」を共有し、家庭でも行ってもらう事で習慣化するよう、協力を仰ぐ。	B	●朝の会等で全員で唱和し、話を聞く時、姿勢を正して活動する時、食事の時、その場に応じてひとつひとつ確認するようにした。 ●唱和するだけでなく、内容も伝え、子ども自身が自分で動けるようにした。 ●絵カードやジェスチャーを用いながら、唱和したり、難しい言葉は簡単な言葉に置き換えたり、例を出したり、様々なアプローチをした。 ●小さな作法を上の句と下の句と分けて貼り出し、習熟度によって下の句を片づけて上の句だけで貼りだすなど工夫をした。 ●覚えられるように、すきま時間なども活用しながら、毎日時間をとった。 ●クイズ形式や、挙手制で答えてもらったりした。
2	教職員体制の充実	●緊急時の対応を学びたい、保育に関する研修を増やして欲しいなど、各人が課題と感じている内容が異なる為、なるべく多く要望に沿った研修を実施する、また情報の提供を行う。	A	●職員間のコミュニケーションをはかるため部署別の仕事内容の把握をする機会をつくった。 ●エピペンやAEDの使い方を詳しく学ぶことができた。 ●災害時の引き渡し訓練をすることによって保護者との緊急時の対応を確認することができた。 ●救命救急の講習、園の歴史についての研修など職員の要望に基づき、実施した。 ●草加警察にお願いして、不審者対応の講習ができた。
3	バスの安全対策	●安全運航の徹底の為、バス運転手へのルール徹底を行う。 ●添乗員と運転手とコミュニケーションを密に取る。 ●清潔に保つため、靴の泥を落とす等の工夫を検討する。	A	●バス乗車について、より安全に運行できるよう職員、運転手と意見交換をした。 ●園内にバスが入る際は放送をし、園全体で安全に努めるとともに、添乗した職員が降車してバスを誘導することを提案、実施した。 ●乗降時、取り残されている園児はいないか、忘れ物はないか、チェックをした。 ●バスでのルールを手紙で配布、また、子どもたちに口頭で伝えた。 ●バス乗車に関する約束事やバスを綺麗に保つための声掛けをした。 ●運転手さんとのコミュニケーションに務め、安全面を強化した。
4	感染症対策	●従来通り、換気・清掃などを徹底的に実施する。	A	●手洗い、うがいを徹底するため、積極的な声掛けをした。 ●嘔吐時の汚物やモップ、バケツなどの取り扱い方の見直しをした。 ●定期的な保育室とバスの換気、清掃の実施。 ●学級閉鎖時の対応が保護者に浸透してきた。

令和6年度「学校評価」
結果公表シート

学校法人 田中学園
八潮ちくみ幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
5	安全対策	●AEDやエピペンを実際に、使用できるようになる。	A	●AEDの使い方を消防の方から指導いただき、実際に使用し、役割分担も経験した。 ●エピペンの使用方法を、消防の方から指導いただき、使用方法も体験した。 ●プール指導時の子どもの人数の確認。 ●アレルギーに関して、研修を通して、理解を深め、より気をつけるようになった。 ●プールにおいて、危険箇所を毎回、声掛けした。
6	災害対策	●緊急時マニュアルの確認を全員が行う。 ●災害時を想定しての保護者への引き渡し訓練や、不審者対策方法など、これまで以上に検討を進める。	B	●災害時引き取り訓練を実施し、園児を保護者に引き渡した。 ●警察の方に来ていただき、不審者対応を学んだ。 ●一年を通して、災害（地震、火災）に対して園ではどのような対応をするかや、保護者の動き等を確認した。 ●子どもたちに、紙芝居などを通して、地震や火災について伝えた。 ●引き取り訓練を実施するとともに、来年度の方法についても検討中。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	小さな作法の徹底	●行事前など取り組めないこともあったので、今後の課題とする。●実践できていない項目があったため、子どもがわかりやすい言葉で伝えていく必要がある。●日常生活の中でも、注目してほしい時に小さな作法の内容を入れると子どもも意識してくれた。今後も繰り返し取り組みたいと思う。●家庭でも習慣化できるように連携していきたい。
2	教職員体制の充実	●職員間で保育の参考にできるよう、クラスを行き来できる機会があったら、保育向上につながると思う。●骨折や捻挫などの怪我対応についても学べると保育に生かせると思う。●緊急時や保育について、どのような研修が必要か意見を出し、情報共有し、保育の幅をひろげていきたい。
3	バスの安全対策	●運転手とルールについて、もう一度確認をし、安全に運行できるよう徹底していく。●砂や泥を落としてから乗車ができなかったので、心掛けたい。●子どものお約束やバスをきれい保つための声掛けは、今後も続けたい。●園庭で遊んでいる子どもとバス等、さらに安全対策につながるよう各自アイデアを出し合っていきたい。●保護者からの連絡の伝え忘れがあったので、スムーズな運行のため、よく確認していきたい。
4	感染症対策	●流行している感染症に関する情報を共有したり、メールなどで保護者に伝えることは必要と感じた。●保育後の掃除で人手が足りず、行き届かない場所もあったので、人が増やせたらいいと思う。●子供達に手洗いうがいの大切さや保育室内をきれいに保つことを伝え、自ら行動できるような声掛けを行う。●吐しゃ物の付着したものは、園で洗わず、保護者に返却になったため、感染がおさえられるようになったと思うので、継続していきたい。●寒い時でも換気をし、手指等の消毒の徹底をしていく。
5	安全対策	●AEDやエピペンを実際に使用できるよう、研修の一回で終わりにするのではなく、定期的に使い方を確認するようにしたい。●担当のクラスの子以外の情報も共有できるようにしたい。●実際に使用することがなかったので、動画を見たりして、確認するようにしたい。
6	災害対策	●緊急時を想定して、より細かい役割を考えたり、動きを確認したりすることが課題である。●緊急時のマニュアルの決定、確認を行う。●災害時のシュミレーション、話し合いができていなかったので、その時間を設ける。●本年度の引き取り訓練は子どもの引き渡しを中心とした内容だったので、より具体的にリアルに考えられる内容にしていくといいと思う。●あらゆる災害の訓練をすることができなかったので、より定期的に取り組めたらいいと思う。